

「教員確保広報アニメーション動画作成委託契約」に係る
企画提案競技（プロポーザル方式）審査用エピソード

下記のエピソードをもとに企画提案を行うこと。

○場面設定

- ・郊外の小学校（1学年1クラス全6クラスの学校）
- ・40代の教員が20代の頃、3年生の担任をしていた時のエピソード
- ・クラスは男子12人、女子14人の計26人のクラス
- ・教員の誕生日（10月13日）の帰りの会后（放課後）の教室で起きたエピソード

○エピソード（セリフの変更、再現する内容の選択は可能とする。）

帰りの会の後、私は職員室に戻り明日の授業の準備をしていました。すると、職員室前の廊下で、いつもはすぐに帰る男子児童が2人落ち着かない様子でウロウロしていました。私が、「どうしたん。なんか先生に用事？」と聞くと、慌てた様子で「なんでもない、先生何しよんかなあ〜ち見よっただけ。」と2人ともウンウンとうなずいていました。私は「そうなん。」と言って再び準備に戻りました。20〜30分後、その2人の男子が、職員室に「後藤先生〜」と言って入って来ました。「どうしたん。」と言いながら、2人の方に行くと、「ちょっと、教室まで来て〜。」ということ。「ちょっと待ってなあ。」と私は途中の準備を片付け、2人について行きました。廊下で、「何かあった？」と聞くと「あ〜、う〜ん、な〜ににもない。」と明らかに何かを隠している様子でした。

教室に着くと、なんとクラスの全員がまだ教室に残っていました。私が「何、どうしたん。」と言うと、1人の女子児童が「せ〜の」と言い、皆で「後藤先生、お誕生日おめでとう。」と言ってくれました。教室は、キレイに飾り付け（どれも生徒が届く低い所まででした）がされていました。「これ、プレゼント。」と言いながら、全員が手書きの手紙を「読んで、読んで」と嬉しそうに手渡ししてくれました。その手紙には「後藤先生、いつも楽しい授業をありがとう。」「後藤先生、給食を大盛にするからたくさん食べてね。」「ずっと先生のクラスがいいです。」「またドッチボールやりたい。」「先生の近くがいいから、前の席にしてください。」など・・・たくさんのうれしいメッセージが書かれてありました。何よりも子どもたちの気持ちがうれしくて、思わず泣いてしまいました。

私が、教員を続けられているのもこのようなエピソードのお陰だと思います。